

2015年度 調査結果（2014年4月発行）

海外留学生のキャリア意識と就職活動状況

企業の採用活動が現状より3カ月後ろ倒しになることで（2016年卒者から適用の見込み）、海外留学からの帰国者の就職環境の改善に繋がるのではないかと注目が集まっている。ディスコでは2月下旬から3月中旬にかけ、日本国外（海外）の大学で学んでいる（学んだ）、正規留学生や交換・派遣留学生を対象に、職業観やインターンシップ経験など多岐にわたる項目を調査した。比較可能なものに関しては国内学生（日経就職ナビ・就職活動モニター）や企業調査データを引用しながら分析したい。

【主な調査内容】

1. 現在の語学力（英語力）	・・・・・・・・・・	P 2
2. インターンシップの経験	・・・・・・・・・・	P 3
3. 就職活動を開始した時期と企業研究の情報源	・・・・・・・・・・	P 4
4. 企業研究をする上で知りたい（知りたかった）情報	・・・・・・・・・・	P 5
5. 現時点での志望業界	・・・・・・・・・・	P 6
6. 日本国外での勤務希望と就職したい企業の種類	・・・・・・・・・・	P 7
7. 企業に評価してもらいたいこと	・・・・・・・・・・	P 8
8. 就職先企業を選ぶ際に重視する点	・・・・・・・・・・	P 9
9. 就職したい理由	・・・・・・・・・・	P 10
10. 就職後のキャリアプラン	・・・・・・・・・・	P 10

《調査概要》

調査対象：CFN (www.careerforum.net) に登録している【日本人留学生】のうち、卒業時期が2013年5月以降の者 6,563人
 調査方法：インターネット調査法
 調査期間：2014年2月14日～3月9日

回答者の属性 単位：人

留学形態	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	留学先地域・国	全体
正規留学	246	74	102	32	38	北米	238
交換・派遣留学	80	28	42	6	4	英国	45
語学留学	8	4	3	0	1	その他ヨーロッパ	37
その他	9	3	2	3	1	オセアニア	10
合計	343	109	149	41	44	アジア	8
						その他	5
						合計	343

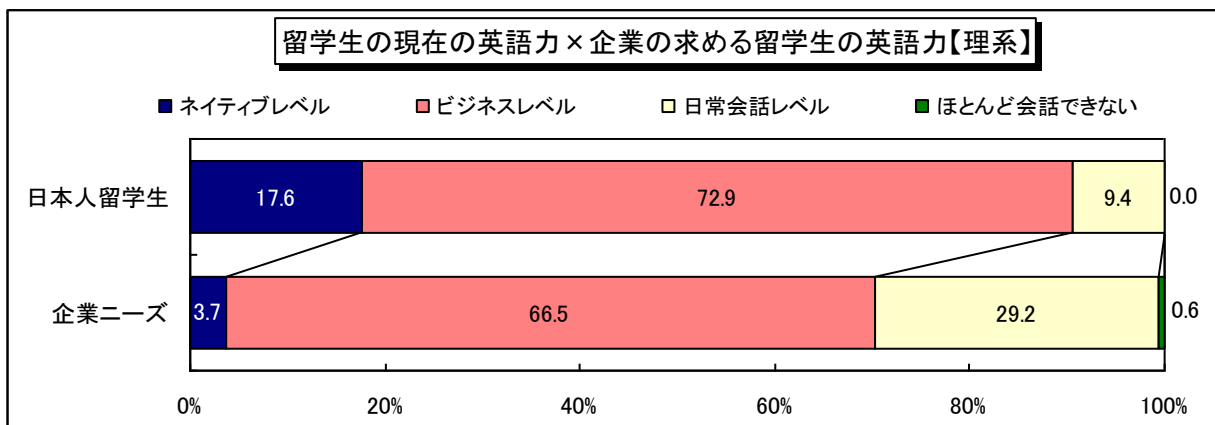
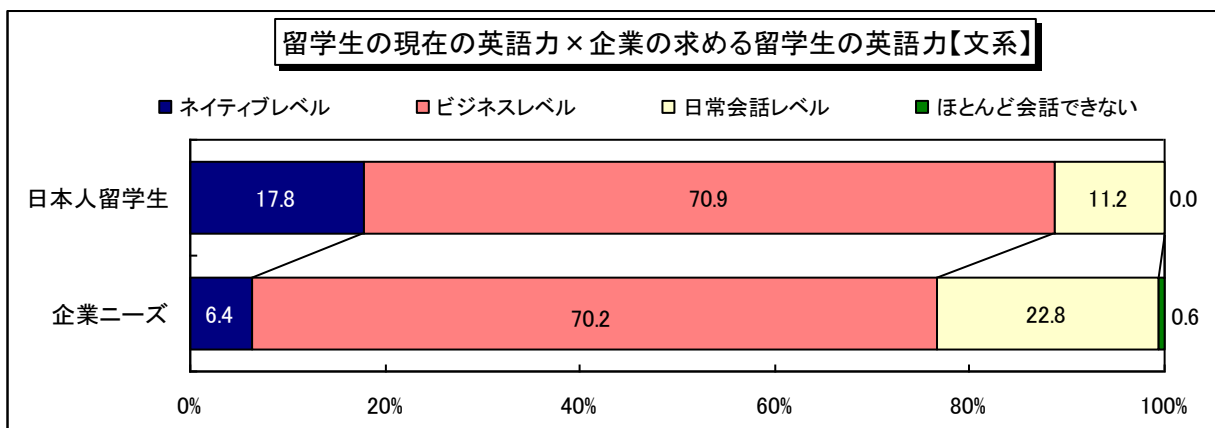
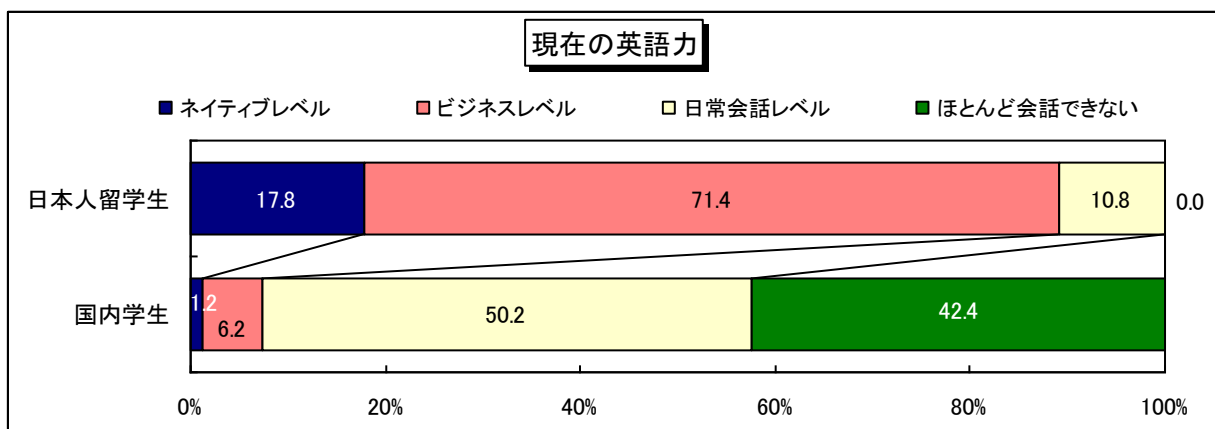
※国内学生の調査結果は「日経就職ナビ 2015 就職活動モニター調査」（2014年1月、2月調査）より
 ※企業調査結果は、「採用活動に関する企業調査」（2014年2月調査）より

◆本資料に関するお問い合わせ先：03-4316-5505 / 株式会社ディスコ キャリアリサーチ

1. 現在の語学力（英語力）

現在の英語力を尋ねてみたところ、日本人留学生については「ネイティブレベル」と回答した学生が 17.8%、「ビジネスレベル」が 71.4%と、約 9 割がビジネスで英語を使うことができると回答しており、国内学生の英語力と比べると圧倒的な差があることがわかる。

また、企業が日本人留学生に求める英語力と比較すると、文系・理系ともに、「ネイティブレベル」「ビジネスレベル」の両方において企業ニーズを上回っている。しかし、企業調査（2014 年 2 月）でも明らかになっている通り、企業が日本人留学生に求める資質のトップは「バイタリティー」であり、英語力以外の資質も強く求められている。詳しくは本稿 8 ページ目（企業に評価してもらいたいこと）にて解説したい。

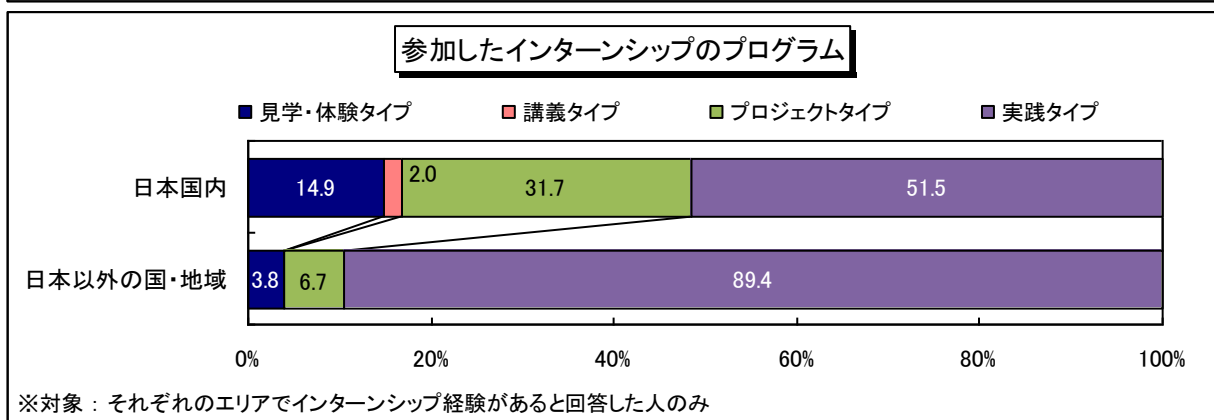
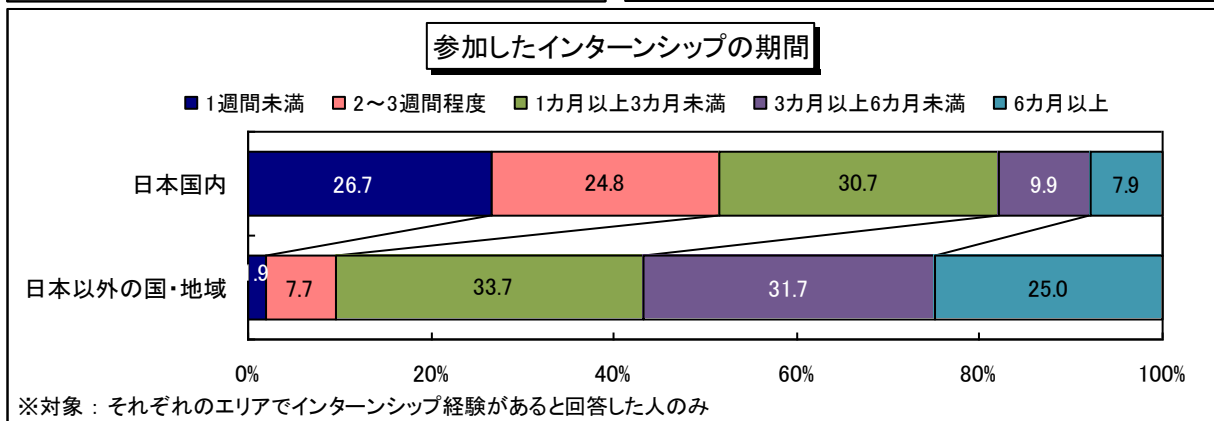
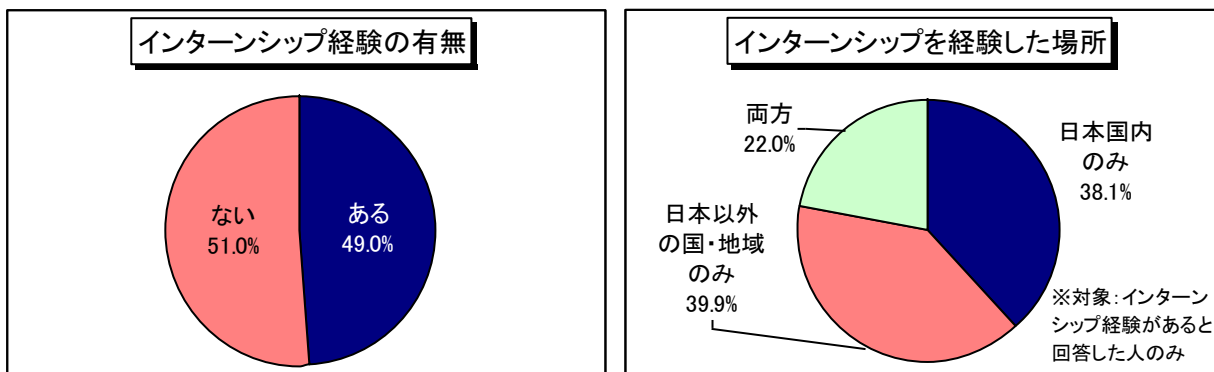


2. インターンシップの経験

インターンシップ経験を有する日本人留学生は全体の 49.0%。そのうち、日本のみでの参加が 38.1%、日本以外の国・地域（以下、海外）のみが 39.9%で、ともに約 4 割。残りの 2 割は「両方」の経験を持っている。

また、それぞれの経験者にインターンシップの期間を尋ねたところ、海外では「1 カ月以上 3 カ月未満」が 33.7%、「3 カ月以上 6 カ月未満」が 31.7%と長期経験が多く、1 カ月未満は 10%に満たなかったのに比べ、日本では 1 カ月未満が 51.5%と半数を超え、短期経験が多かった。

経験したインターンシッププログラムについても、日本では「実践タイプ」が 51.5%、「プロジェクトタイプ」が 31.7%であったが、海外では「実践タイプ」が 89.4%と圧倒的に多かった。



(注)各プログラムの違い

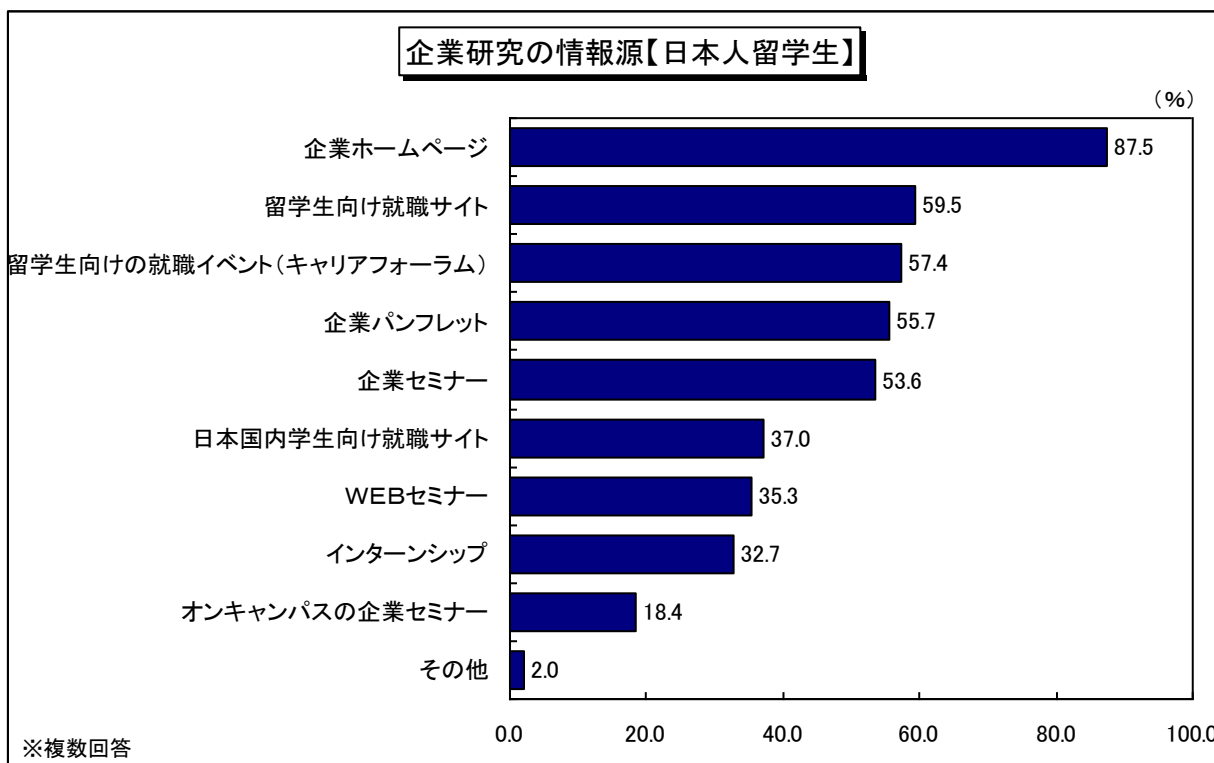
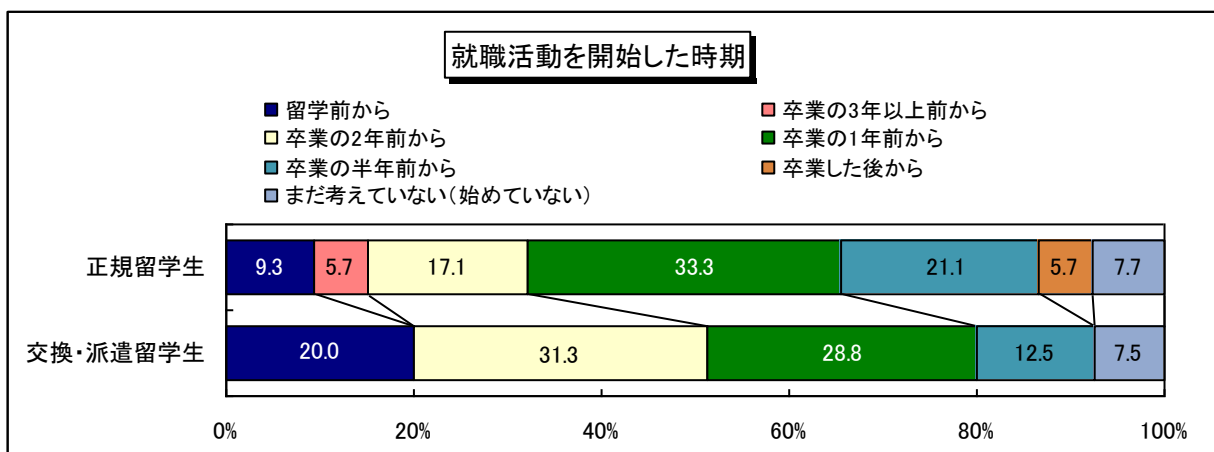
- 見学・体験タイプ = 実際の職場で業務について説明を受け、仕事を少しだけ体験できる。
- 講義タイプ = 業界・企業・仕事についての講義のなかで、その企業の事業内容を理解し、「働く」について学ぶ。
- プロジェクトタイプ = 学生でチームを組み、その企業の事業にかかわる課題に取り組む。
- 実践タイプ = 各部署に配属され、スタッフの一人として業務を任される。

※複数のプログラムを組み合わせる場合には、主なもの 1 つを選択

3. 就職活動を開始した時期と企業研究の情報源

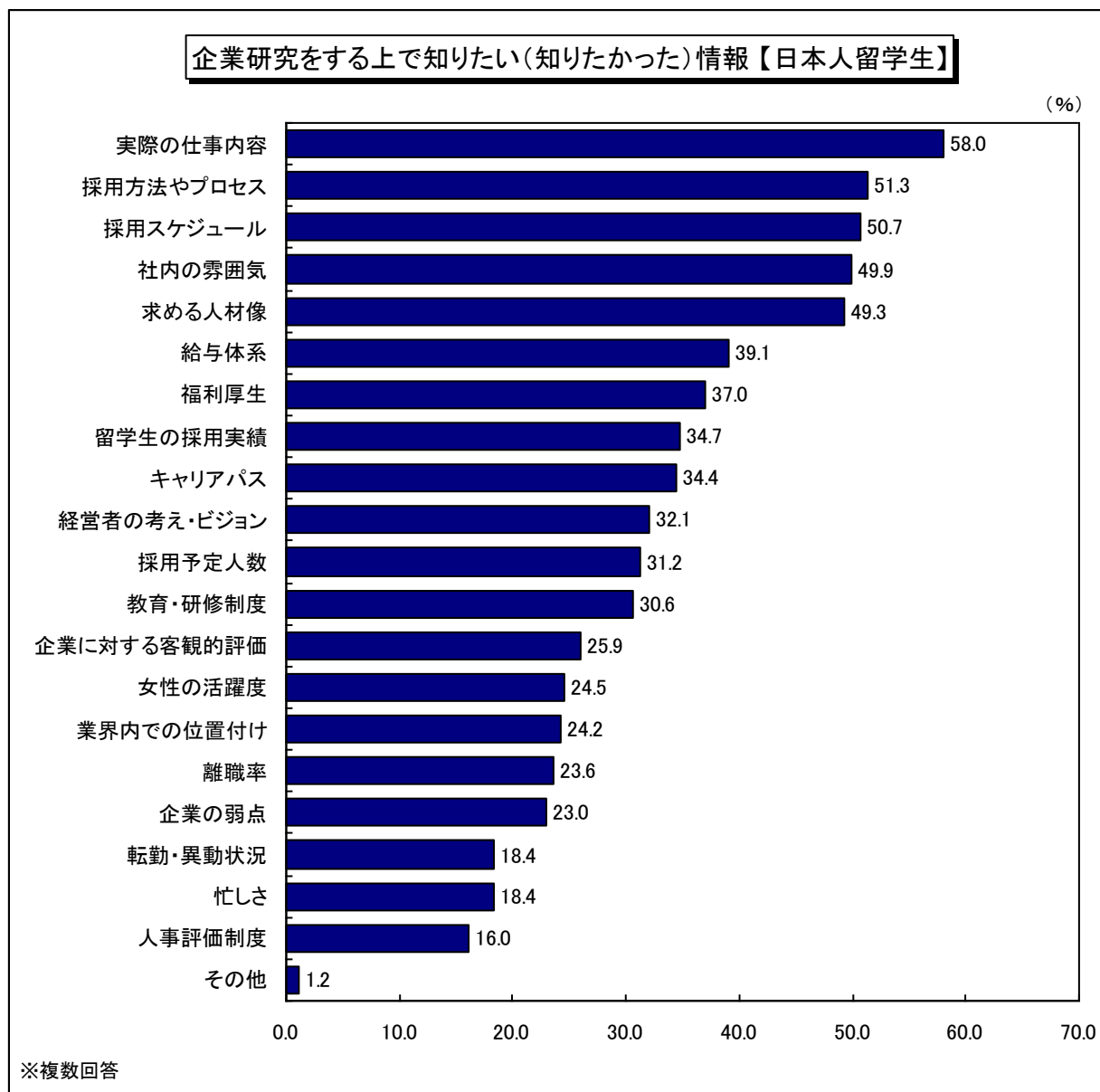
日本人留学生に就職活動を開始した時期について尋ねたところ、正規留学生と交換・派遣留学生で、違いが見られた。正規留学生は「卒業の1年前から」と回答した学生が33.3%で最も多かったが、交換・派遣留学生は「卒業の2年前から」と回答した学生が31.3%で一番多い。また、正規留学生は、開始時期が分散しており、状況に応じ多様な選択をしているようだ。

企業研究の情報源については、「企業ホームページ」が87.5%と圧倒的に高かった。また、「オンキャンパスの企業セミナー」18.4%に対して「WEBセミナー」はその2倍近くの35.3%の回答があったことから、WEBを情報源としている学生が多いことがわかる。



4. 企業研究をする上で知りたい（知りたかった）情報

日本人留学生が企業研究をする上で知りたい（知りたかった）情報については、「実際の仕事内容」と回答した学生が 58.0%で一番多く、続いて「採用方法やプロセス」が 51.3%、「採用スケジュール」が 50.7%、「社内の雰囲気」が 49.9%、「求める人材像」が 49.3%と、給与体系や福利厚生よりも、仕事内容・採用要項・仕事環境を挙げる学生が多かった。

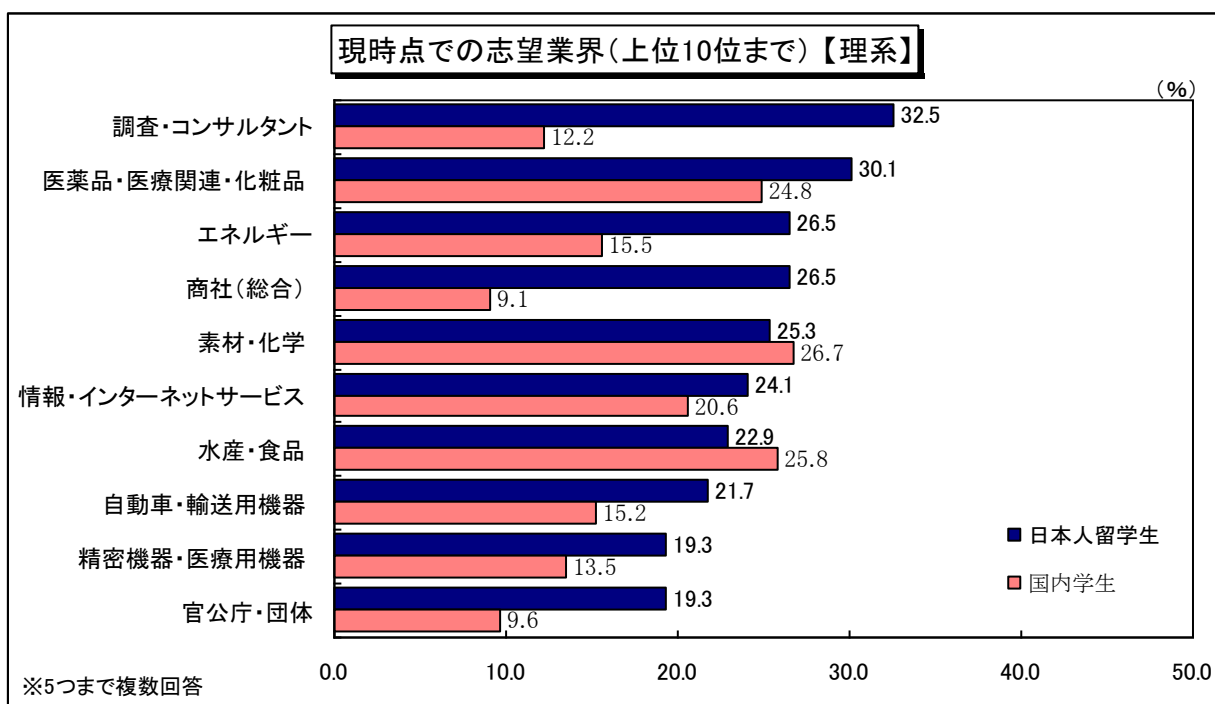
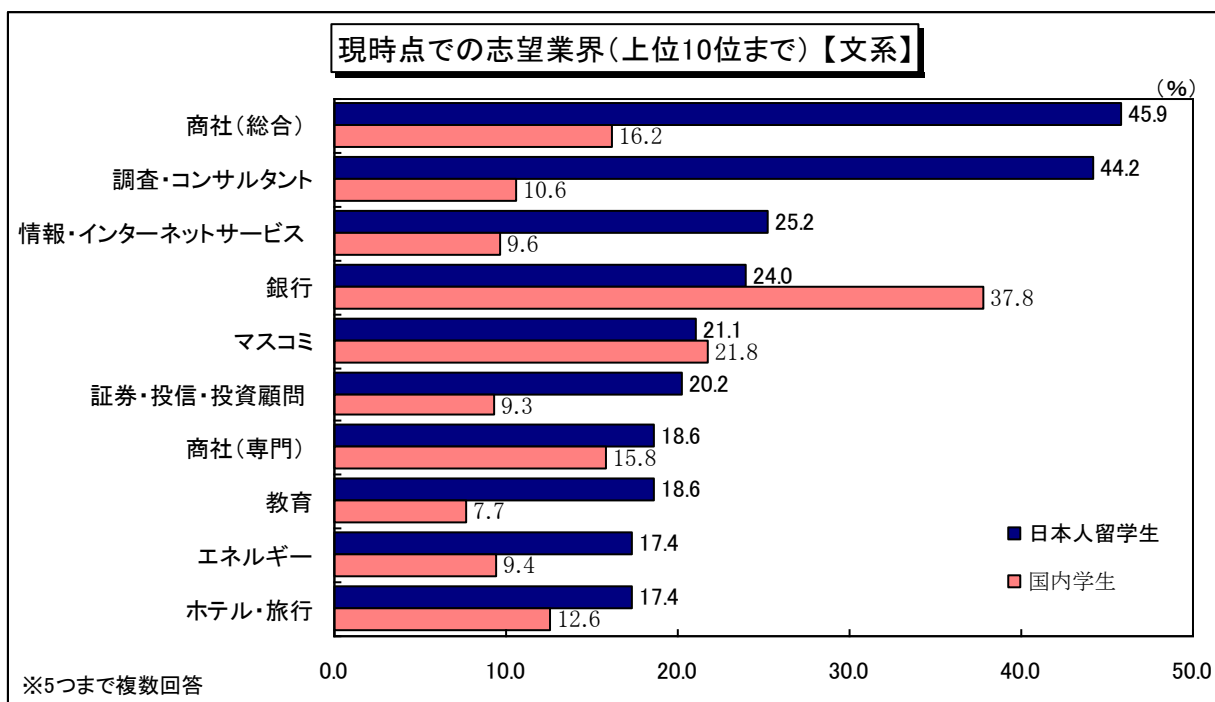


5. 現時点での志望業界

志望業界について、40 項目の選択肢の中から 5 つまでを選んでもらい、文系・理系別に上位 10 までを国内学生と比較した。

文系の 1 位は「商社（総合）」45.9%、2 位は「調査・コンサルタント」44.2%。この 2 業界が 4 割を超え、突出して多かった。国内の文系学生では「銀行」（37.8%）が圧倒的に人気だが、日本人留学生では 4 位で 24.0%と 2 割台にとどまった。

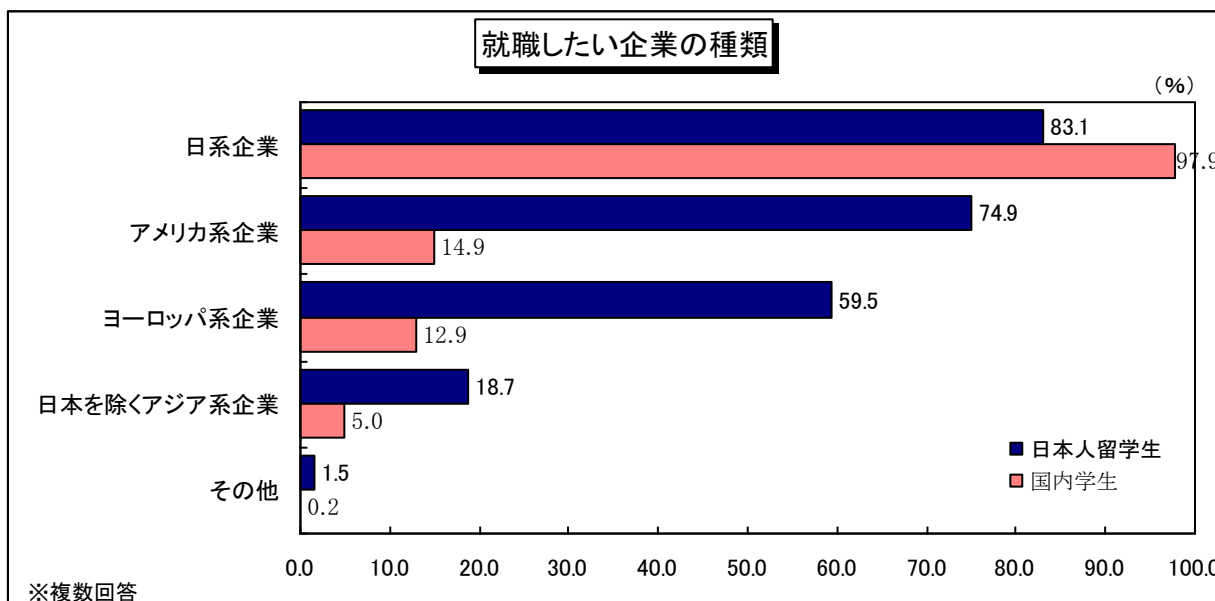
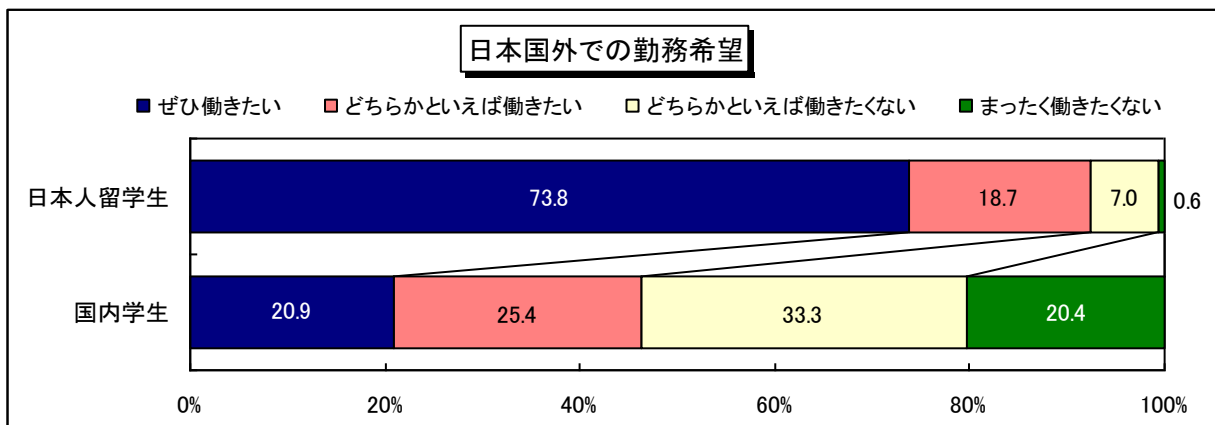
理系では、文系ほどばらつきは見られず、1 位「調査・コンサルタント」32.5%、2 位「医薬品・医療関連・化粧品」30.1%の順。国内の理系学生がメーカーに志望が集中しているのに対し、理系留学生ではメーカー以外の人気も高いのが特徴的だ。



6. 日本国外での勤務希望と就職したい企業の種類

日本人留学生に、日本国外での勤務希望について尋ねたところ、「ぜひ働きたい」と回答した学生が 73.8%、「どちらかといえば働きたい」が 18.7%と、海外で働きたいと考えている学生が 9割を超えており、国内学生を大きく上回る結果となった。

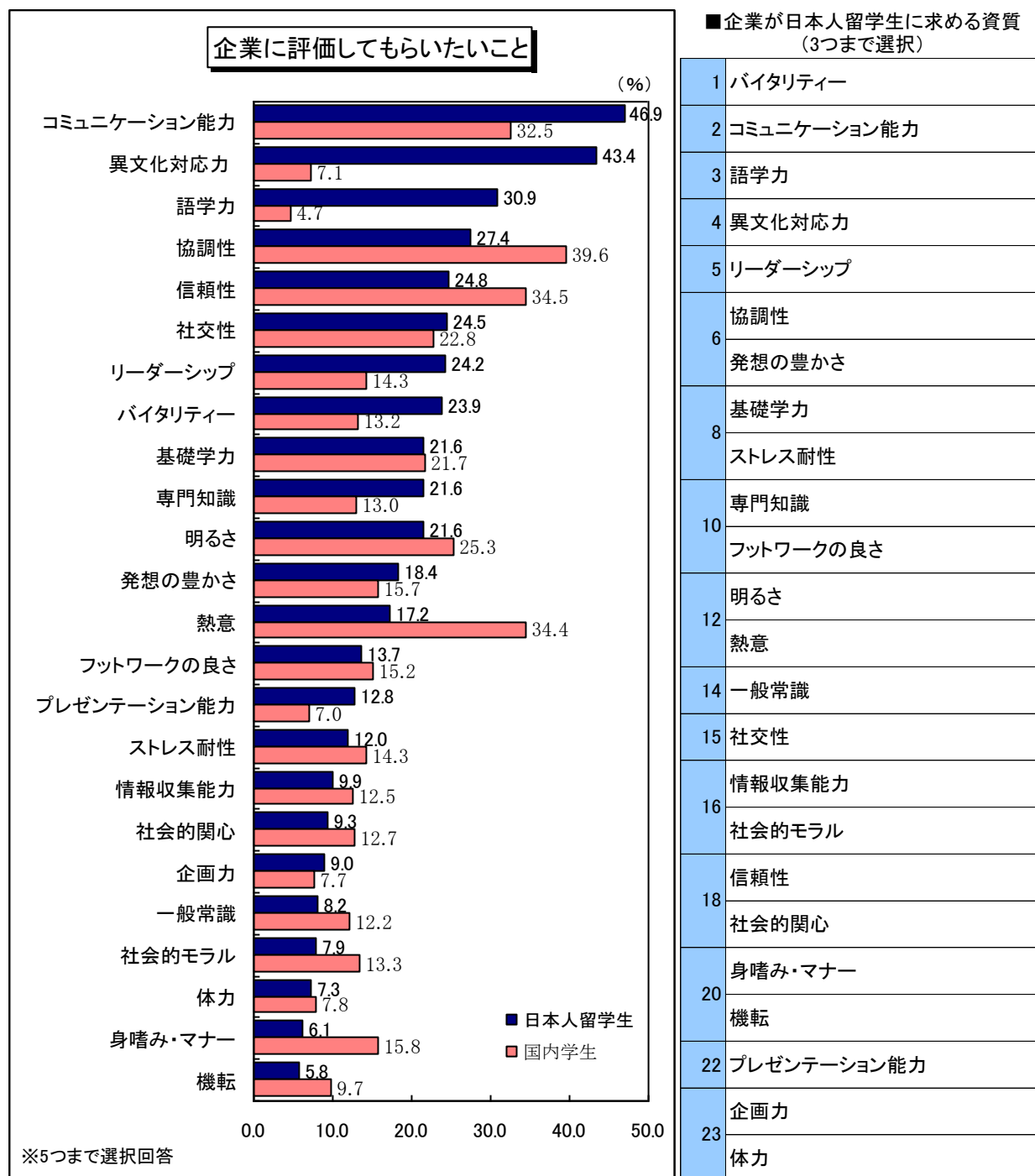
また、就職したい企業については、国内学生はほとんどが「日系企業」を選択しているのに対して、日本人留学生は、「日系企業」が 83.1%と一番多かったものの、続いて「アメリカ系企業」が 74.9%、「ヨーロッパ系企業」が 59.5%と、欧米での勤務を選択した学生が目立った。



7. 企業に評価してもらいたいこと

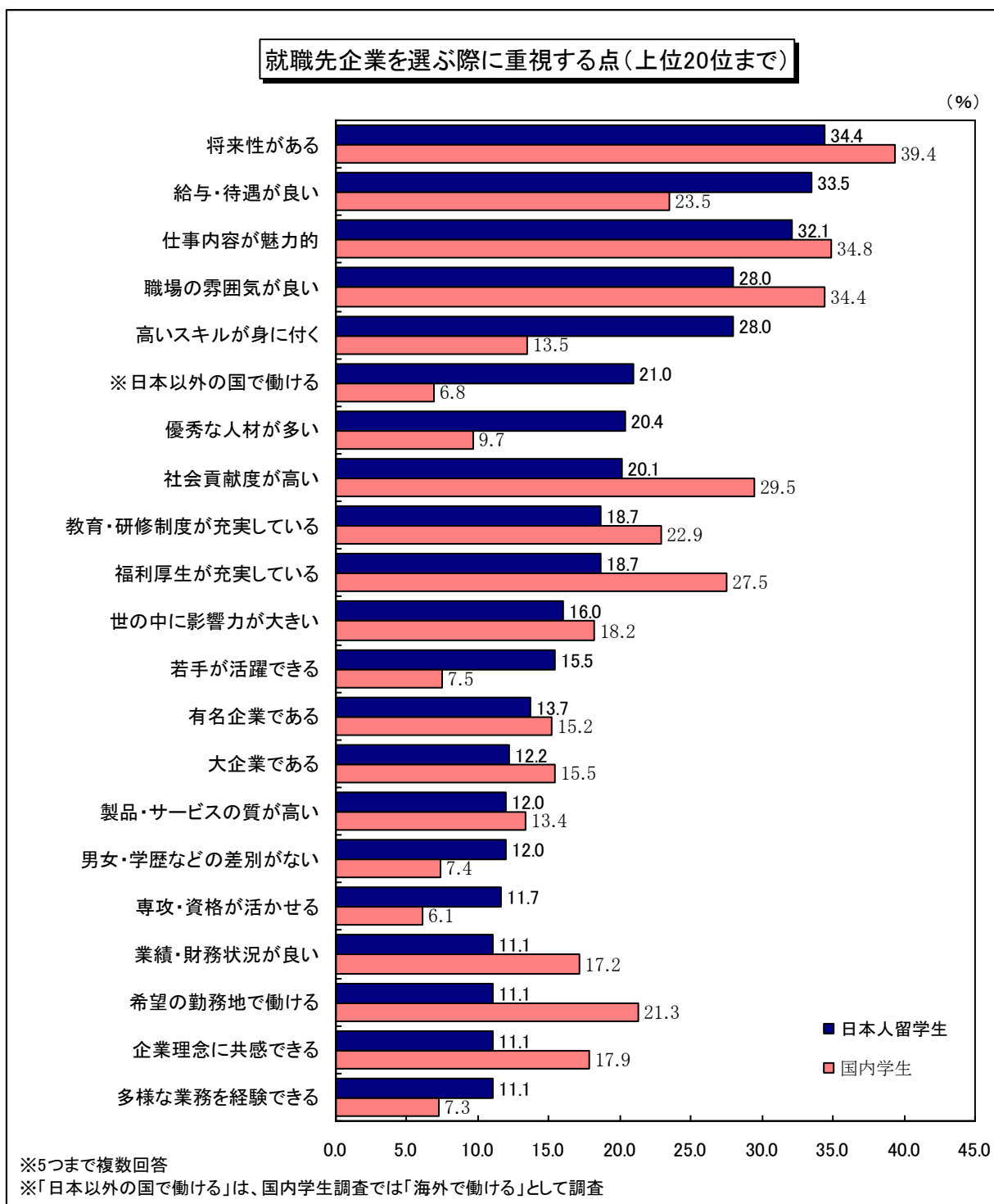
採用選考にあたって企業に評価してもらいたいことについて、25項目の選択肢の中から5つまで選んでもらったところ、1位が「コミュニケーション能力」で46.9%、2位が「異文化対応力」43.4%、3位が「語学力」30.9%という結果となったが、特に、「異文化対応力」と「語学力」については国内学生と大きな差がついている。

「コミュニケーション能力」「語学力」は企業が日本人留学生に求めるもの(2014年2月調査)でも上位にきており、学生のアピール内容と合致するが、企業が求める資質で最も高かった「バイタリティー」は、ここでは8位にとどまり乖離が見られる。



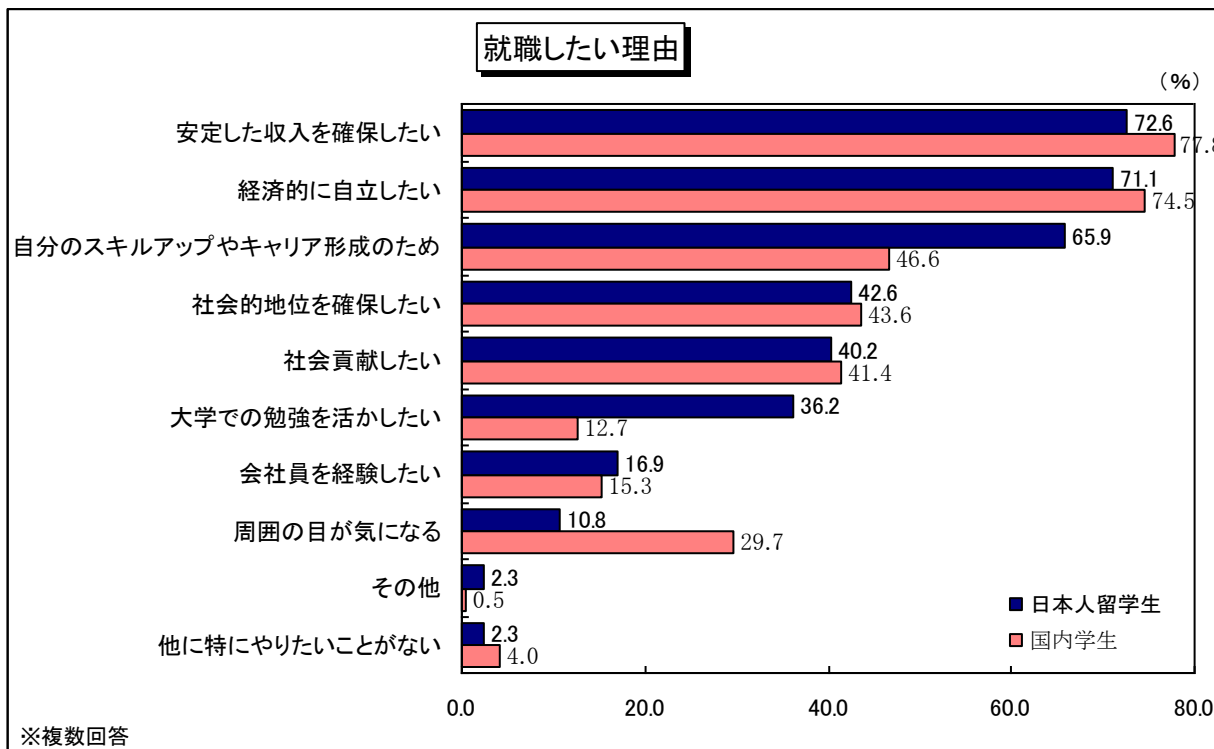
8. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

就職先企業を選ぶ際に重視する点について、30 項目の選択肢の中から 5 つまでを選んでもらったところ、1 位が「将来性がある」で 34.4%、以下「給与・待遇が良い」が 33.5%、「仕事内容が魅力的」が 32.1%の順となり、これらは国内学生も多くが選択していた項目でもあったが、国内学生に比べて、「日本以外の国で働ける」「高いスキルが身に付く」「優秀な人材が多い」という項目を選択していた学生が多いのが目立った。



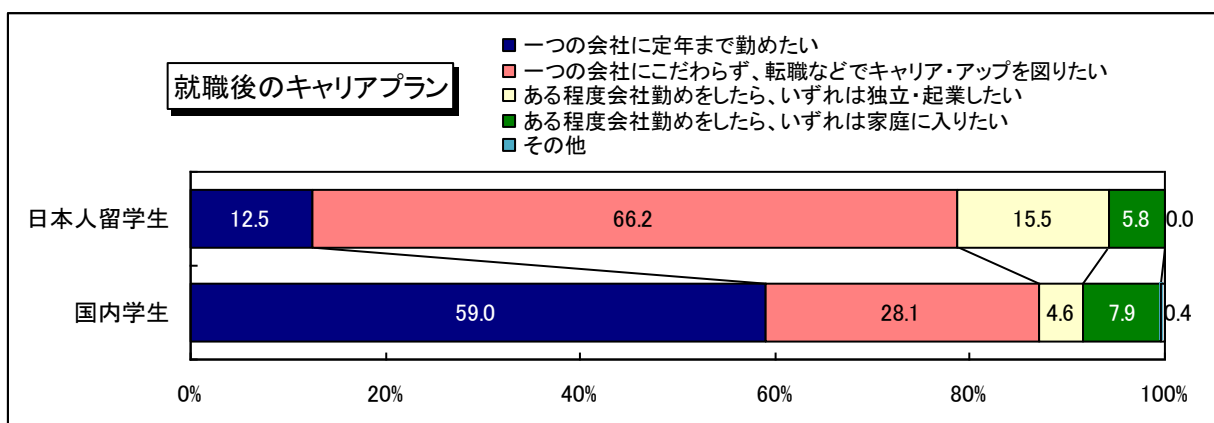
9. 就職したい理由

就職したい理由については、日本人留学生・国内学生ともに「安定した収入を確保したい」と「経済的に自立したい」といった経済的な理由が上位にきているが、「自分のスキルアップやキャリア形成のため」と回答した学生が、日本人留学生は 65.9%に対して、国内学生は 46.6%と差が開いた。



10. 就職後のキャリアプラン

就職後のキャリアプランについても、国内学生は「一つの会社に定年まで勤めたい」と回答した学生が 59.0%で最も高かったが、日本人留学生は「一つの会社にこだわらず、転職などでキャリア・アップを図りたい」と回答した学生が 66.2%と一番多く、違いが見られた。



【総括】

日本人留学生は、国内学生と比較すると、企業へのアピール点として英語力をはじめとした自分のスキルや経験を強みに思っている学生が多く、安定志向というよりも、スキルアップやキャリア・アップを重視している点が目立った。また、志望業界や勤務希望についても、国内学生と日本人留学生の違いが顕著に出ており、それぞれの志向性がうかがえる結果となった。